

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1270201054		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームちぐさの家		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町150-1 (電話) 047-216-0861		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	4月8日

【情報提供票より】(21年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て造り		
	2階建ての 1階~2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費20,000円+実費
敷金	無し		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:3年)
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(2月7日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 晴山会 平山病院・山崎歯科・医療法人社団 海星会 マリブ海浜歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームちぐさの家は木造2階建ての2ユニットである。建物内部はログハウス調で木をふんだんに使いぬくもりを醸し出している。住宅街にありながら、ホームの隣に広い農地を借り、入居者はボランティアの協力を得ながら四季折々に野菜作りを手伝っている。また、兔の飼育やボランティアの定期的な演奏会は入居者の心を和らげている。入居者は全員女性で比較的軽度であり、お互い支え合う家族のような生活を送っている。近隣小学校の総合学習の一環としてのホーム訪問の受け入れは、「高齢者と接することで子供達が優しくなった」と学校からの嬉しい報告もあり、学習終了後も継続しての交流が行われている。今後は入居者と子供達が共同で野菜の収穫をするなど、触れ合う機会を多くすることを計画している。今後、益々地域に根差したホームとして期待が持てる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題が5つあり、その一つである「職員を育てる取り組み」に関しては、法人に研修の必要性の理解を求め、常勤職員のみならず非常勤職員の研修参加や、公休扱いで費用も法人負担で了解された。また、内部研修として研修に参加した職員による報告会、看護職員の医療面における緊急時の対応などの勉強会を行っている。残りの改善課題については、引き続き取り組みを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義について職員への説明は行っているが、自己評価の取り組みは管理者、計画作成担当者、サプリーダーなど幹部職員の話し合いで行われ、全職員参加での取り組みには至らなかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族代表、地域住民代表、自治会長、民生委員、花見川区会議員、小学校教頭、職員など幅広い参加者で行われている。議題は運営推進会議の意義と目的、ホーム行事、参加者の意見交換などで2ヶ月に一度開催している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム内に意見箱を設置しているが、今までに苦情、相談が寄せられた実績はない。しかし、家族会や面会時に意見や要望を聞くように努めている。最近ではホームと家族のメールのやりとりで意見、要望が寄せられ、直ぐに解決の出来ることはその場で返信し、中には職員間で話し合っ報告するときもある。それらの意見は運営に反映するよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは自治会に加入し、地域のゴミ拾いや祭りなどに参加している。また、近隣小学校の総合学習の受け入れや、他校の「なぎなたサークル」との交流など子供たちとの交流を積極的に行っているほか、各ボランティアによる農園作り、定期的な演奏会、折り紙教室などが行なわれている。ホームが開催する夏祭りや花火大会には近隣にも声をかけをし、参加を呼びかけている。また、「こども110番の家」として地域に役立つ存在となっている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念である「個人の尊重、安らぎのある生活、自立支援」を全職員で話し合い作り上げた。ホームが目指す「ほっとできる生活」を支えるため、職員も家族の一員として接するよう心がけている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常のケアのなかで、理念に基づいたサービスができているかどうか、入居者の態度や気持ちから押し量り、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域のゴミ拾いや夏祭りに参加している。また、近隣小学校の総合学習を受け入れ、学習終了後も毎週水曜日の1時間、小学生との交流を行っているほか、地域ボランティアによる音楽会や折り紙教室も開かれている。「こども110番の家」としても地域に役立つ存在となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義について職員への説明は行っているが、自己評価の取り組みは管理者、計画作成担当者、サプリーダーなど幹部区員との話し合いで行われ、全職員参加での取り組みには至っていない。		自己評価を実施することは、日常のケアの振り返りに繋がると思われる。介護の質の向上のためにも全職員で取り組むことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表、地域住民代表、自治会長、民生委員、花見川区会議員、小学校教頭、職員など幅広い参加者で行われている。議題は運営推進会議の意義と目的、ホーム行事、参加者の意見交換などで2ヶ月に一度開催されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催の研修への参加、介護相談員の受け入れなど、行政との関係作りに努めている。また、定期的に区の職員が来訪し、行政の支援が必要な入居者への面談が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は毎月1回入居者一人ひとりの「ちぐさ便り」を作成し、行事報告や健康状態、時には主治医のコメントや往診の予定などを家族に送っている。また、居室担当者が入居者の日常の様子に写真を添えて「メッセージカード」を送っている。小遣いノートは家族の面会時に提示し了解を得ている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置しているが、今までに意見、苦情等は寄せられたことはない。家族会を通じて意見を出してもらったり、面会時に聞くようにしている。また、最近は家族とホームがメールでも意見のやりとりを行うようになった。寄せられた意見要望は、職員間で話し合いを持ったりし運営に反映する様に努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は高い。異動や離職者が出た場合は、入居者への動揺を防ぐ配慮を最優先し対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の必要性を法人に理解してもらい、公休扱いで費用は法人が負担する体制が整った。そして、常勤職員から順に全ての職員が研修を受ける機会が確保された。また、看護職員による緊急時対応などの内部研修のほか、法人内研修も2ヶ月に1度行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内交流は行われているものの、参加者は管理者、計画作成担当者などで、現場職員同士が交流するには至っていない。ホームの近くを他のホームの入居者と職員が散歩している際は、「休憩場所にどうぞ」と声かけを行っている。		同業者との関係づくりを行い、他のホームの見学会や職員の相互訪問などの機会を持ち、サービスの質の確保と職員育成の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者にはできる限りホームの見学を勧めている。緊急入居の場合は家族から情報を聞き取り、それを職員間で共有し、ホームでの生活がスムーズに運ぶよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者からは料理の味付けや、盛り付けなどを教わることが多い。また、戦争体験談なども聞くことがある。入居者と職員との関係は良好で、家族のような雰囲気で話し合い支えあう関係を築いている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活や支援の中から、入居者の思いや意向の把握に努めている。聞き取りや表現が困難な人については、家族から本人の思いなどを聞いている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメントを活用している。入居者へのアセスメントはフロアの職員全員が行っており、管理者が意見をとりまとめている。また、家族からの意見も集約し、入居者の希望を一番に介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回のフロアミーティングで、介護計画の実効性を確認している。短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月に1回の見直しを行っている。尚、本人の容体などに変化があった場合は、すぐに見直しを行い、新たな介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への有料送迎や、母体法人が経営している他のグループホームや介護付き高齢者住宅の紹介などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を中心として適切な医療が受けられる体制は整っており、入居者と家族の納得のいく医療機関の受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応については契約時に、入居者・家族に文書にて提示し、支援していくことで同意をもらっている。医療機関との連携も整っており、24時間の対応が可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に合わせて耳元で話しをするなど、個人の尊厳に配慮していた。入居者の個人情報は事務所の鍵のかかるロッカーで保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、入居者の希望を尊重し、個々のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を手伝える入居者には、声かけをして一緒に行っている。誕生日にはケーキを用意したり、外食に行くなどの楽しみもある。しかし、食材は3食とも食材会社からの取り寄せで、入居者の希望が取り入れられていない。		一日1食でもよいので職員と入居者が一緒になって食事のメニューを考え、調理することも入居者の楽しみに繋がると思われるので、食事の提供について今後の取り組みに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行われており、時間は決まっているが、その時間内であれば、入居者の状況や希望には、職員の都合を優先することなく、できる限り対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアの音楽の先生を招いて歌を歌ったり、野菜の収穫をしたり、洗濯物を干すことや取り込むのを手伝ってもらうなど、強制をすることなく、残存能力に応じて声かけをして、手伝ってもらっているようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1回は必ず散歩に行くようにしている。買い物、外食、ドライブなどの希望があれば、職員の人数や日程を調整し、できるだけ実行できるようにしている。家族の参加もあるバス旅行も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、非常口は職員の人数などの関係で、入居者が出て行ってしまった時に職員の対応がとれない体制であること、家族からの安全面を考慮して欲しいとの要望もあり、現状は施錠している。		職員の配置や見守り方、近隣住民との連携を図り、1日の中で施錠しない時間帯を作るなどの工夫をこらすことで、鍵をかけないケアの実現に近づくような取り組みが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、消火器の使い方などの講習も受けている。また、緊急時のマニュアルも作成されている。避難訓練の計画は立てられており月1回実施しているが、避難方法の体制が不十分と思われる。		2階入居者の避難が最善の方法で出来るよう、関係機関のアドバイスも受けながら訓練を継続して欲しい。そして、職員一人ひとりが危機管理の意識を高め、緊急時に不安を感じることなく対応できるよう今後の取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や味を調整するなど入居者の状態に合わせた食事を提供し、水分も状態に合わせて確保している。状況は随時記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーを入居者と職員が一緒になって作りかけている。季節ごとの飾り物やベランダにある花や外の桜の木を観賞することにより季節感が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた家具や仏壇、装飾品を持ち入れ、居心地よく過ごせるような部屋になっている。		